

本市中学生4人が県入賞

登米中・小野寺さくらさん 県最優秀賞・全国入賞

平成26年度「命の大切さを学ぶ教室」作文コンクール（県警察主催）の中学生の部で、登米中と佐沼中の生徒4人が応募した作品が入賞しました。

このうち、登米中2年の小野寺さくらさんの作文が県の最優秀賞に選出。全国コンクールに出品され、警察庁長官官房給与厚生課長賞を受賞

しました。登米中2年の横澤君、佐沼中3年の白鳥ありささん、同中2年の高田羅詠さんが、県の優秀賞に選ばれました。

警察庁長官官房給与厚生課長賞の受賞作品

いなくなつてから分かる命の大切さ

登米中2年 小野寺さくらさん

私は、東日本大震災で祖父を亡くしました。祖父は体が不自由で、老人介護施設にいました。その施設は海が近く、とても眺めが良い場所がありました。漁師だった祖父は、海を心から愛していました。いつも目を細めながら海を眺めていました。その美しかった海が一瞬にして祖父を飲み込んでしまいました。

私はひどく混乱しました。私は祖父が大好きでした。学校で辛いことがあると、いつも力強く私を励ましてくれました。「さくら、頑張れ」と会うたびに勇気をくれた祖父。優しかった祖父。もう会うことができないなんて、全く信じられませんでした。こうして、祖父は私の前から突然去っていきました。「遺体が見つかっただけでも幸せだ」という人もいましたが、もう祖父と話せないのだと思うと、ただ悲しみと後悔ばかりが募りました。

命の大切さを学ぶ 教室作文コンクール

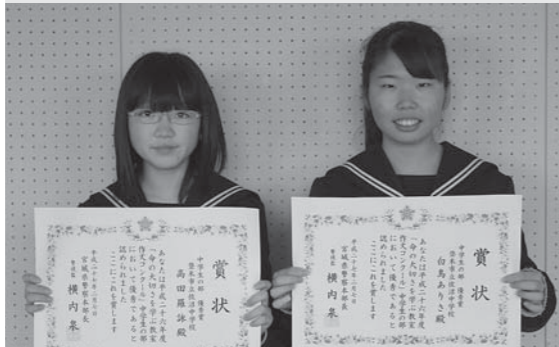
中高生を対象にした「命の大切さを学ぶ教室」は、警察庁の「社会全体で被害者を支え、被害者も加害者も出さない街づくり」のモデル事業として県警察が平成20年度に導入。22年度からは全国的に開催されています。

教室の内容は、警察職員による被害者遺族の手記の朗読や犯罪被害者遺族による講演など。本年度は、県内で13校が教室を開催。受講した生徒たちから1367点の作文の応募がありました。



県警警務部参事官から全国入賞の表彰状を授与される小野寺さん

【上】登米中の小野寺さん(左)と横澤君。【下】佐沼中の高田さん(左)と白鳥さん



もっと会いに行っていたらよかった、もっとたくさん話をしておけばよかった。あんなに励ましてくれたのに、私にはもう「ありがとう」と伝えることもできないのです。私にとって祖父がどんなに大切な存在だったのか、私は祖父を亡くして初めて気付きました。

先日、学校で「命の大切さを学ぶ教室」がありました。突然の交通事故でかけがえのない家族を奪われた方の話を聞き、もう3年もたっているのに、祖父を失った時のことがはっきりと心によみがえり、苦しくて涙が浮かんできました。大切な人が突然いなくなってしまう辛さ、悲しさ、なぜ自分の家族なのかという怒り、もっと一緒にいたかったという後悔。たとえどんなに時間がたっても、決して薄れることなどないのだと知りました。

いつも何気なくそばにいる人の命がどんなに大切なものなのか、私は祖父を失って初めて学びました。例えば、今、父や母が、そして友達が、突然この世を去ったとしたら、きっとまた同じ気持ちを味わうだろうと思います。

「何である時、あんなことを言ってしまったらどうだろう」「もっと大切にしておけばよかった」。そんな気持ちにずっと苦しみ続けることにならないように、私は、自分の周りの人たちを大切にしていきたいと思えます。そして、自分の体験したことを決して忘れずにいようと思います。学校で友達と何かあると、私はいつも祖父の笑顔と「頑張れ」という言葉を思い出します。そしてそのたびに、どんな時も優しい自分でありたい、目の前にいるかけがえのない人を大切にしようと思えるのです。

生徒一人一人が被害者の痛み実感



登米中 日野久美 教諭

「命の大切さを学ぶ教室」は昨年6月、道徳の授業の一環として全校生徒を対象に実施したものです。今回の教室では、実際に交通事故で子どもを亡くされた母親の手記などが紹介されました。

生徒たちは、命の尊さについて理解を深め、それぞれが感じたことを作文にまとめました。生徒一人一人が被害者が受けたさまざまな痛みを理解することで、生命の大切さを実感し真剣に考える時間になったと思います。

広報とめ 2部門で全国へ

公益社団法人日本広報協会が毎年実施している全国広報コンクール。平成26年中に発行した広報紙などを対象にした同コンクールに、市広報紙「広報とめ」が県代表で推薦されます。

今回、全国広報コンクールに推薦されるのは、広報紙と広報写真(1枚)の2部門。広報紙は広報とめ3月1日号が、広報写真は同10月21日号の表紙写真が選ばれました。広報紙、広報写真の2部門での県推薦は3年連続となります。

広報紙の部の審査では、東日本大震災の体験談を中心にまとめた特集(2~15ページ)や「伝統・伝承芸能を考えるワークショップ」(30~31ページ)の記事などが高く評価されたほか、全体的に「読みやすくまとまっている」と評価されました。

広報写真の部は、東和・米谷小学校の稲刈り体験学習の写真。「稲刈りの大変さと収穫の喜びが伝わってくる」などの評価を得ました。

全国広報コンクールの審査は、各都道府県から推薦された広報紙、広報写真、ウェブサイトなど、部門ごとに行われます。



広報紙の部は広報とめ3月1日号(上)が、広報写真は同10月21日号が全国に推薦